

◎チェルノブイリ救援・中部では、戸別訪問による募金活動は一切しておりませ
ん。不審なカンパ要請には充分ご注意ください。

ポレーシエ・・・チェルノブイリに思いをよせて

チェルノブイリ救援・中部 事務局から 1992.2.28 No.10

約3.9トンのミルク、約5800冊の絵本、

励ましのカード約4500通がジトミールへ



無事物資とともに現地に到着した 早川彰子さん、松浦千秋さん、木綿さん

皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年「とどけウクライナへ・ミルクキャンペーン」「チェルノブイリの子に絵本を」「メッセージカードキャンペーン」など繰り広げ、冒頭タイトルの通り予想外の大成功を収めることができました。カンパや救援物資発送作業にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

これらの救援物資は2月末までに飛行機や船で送られ無事全て現地に着きました。昨年以来のソ連の激変にもかかわらず、救援・中部の運動は現地の人々との確かな絆を基礎に大きな影響も受けず今年に至っています。

この他今回沢山皆さんにお知らせしたいことがあります。今度の通信誌はおおよそ下記のような内容です。現地の深刻な実状を考えると「砂漠にジョウロで水をまくような」活動かもしれませんが、今後もどうぞご支援ください。

1. ミルク、絵本、カード無事現地到着
2. 「救援・中部」事務所開設と維持会員募集について
3. 放射能難民認定（環境権）を訴えに国連へ
4. 「救援・中部」モスクワ駐在所開設について
5. 「チェルノブイリ救援 冬の旅」講演会開催について

その他、etc. etc. . .

まず私達の予想を大きく越え590万円ものカンパが寄せられました。これらのお金で名古屋グループは、3892キログラムの粉ミルクとスキムミルクを購入し、一缶一缶、一袋一袋に皆さんから寄せられたメッセージシールを張りました。

また大垣グループが展開した「チェルノブイリの子らに絵本を」キャンペーンでは、これもまた5789冊(1)の絵本が全国から送られて来ました。

また一昨年も岐阜で行ったカードキャンペーンは、1500通以上も上回る4550通の励ましのメッセージカードが集まり、この運動の広がりをあらためて認識させられた次第です。この他にも無農薬の米や小麦などが送られました。

尚、寄せられたミルクや絵本が膨大な量になり、ソ連のアエロ・フロート社が国営から独立採算の民営に変わったりで、全部を飛行機で運ぶことができず、大部分は船便で直接ウクライナ共和国のイリチェフスク港に向け12月28日神戸港を出港しました。そして2月27日木曜日に無事ジトミールスキー・ヴィスニークのもとに届いたと編集長からファックスがありました。

一方12月24日には、アエロフロート機でチェルノブイリ救援・中部の代表3人(早川彰子さん、松浦千秋さん、松浦木綿さん)が医薬品、メッセージカードなど約1トン150万円相当を運びました。「ソ連邦消滅などの政変で、荷物が中ぶらりん」などの報道により、皆様には大変ご心配をおかけしましたが、こうしてすべての救援物資を無事送ることができ救援・中部スタッフ全員とても喜んでます。

** ミルクキャンペーン収支報告 **

収 入		支 出	
ミルク代カンパ	5,905,000円	粉ミルク代(2496キロ)	3,243,264円
*ほか粉ミルクなど現物で		スキム・ミルク代	1,029,588円
196キロ		運賃(船・航空など)	1,039,000円
(個人および乳業メーカーより)		シールなど印刷代	26,000円
		通信費	123,200円
		*繰り越し	407,548円
合計	5,905,000円		5,905,000円

*繰り越しは、乳業メーカーおよび海運会社のご協力により生じたものです。この繰り越し分は、次回の救援ミルク代とさせていただきます。

事務局開設と維持会員募集のお願い

チェルノブイリ救援・中部では、救援活動の拡大により事務作業量が膨大になって来たため常設の事務局を開設することにしました。またこれまで問い合わせ窓口およびマスコミ担当をしていただいていた山盛さんに専従事務局員をお願いすることになりました。この事務局開設でさらに救援の輪を広げていきたいと思っています。どうぞ維持会員入会をお願いします。

- ◎維持会員入会費 1,000円/月
(一年分まとめた場合 10,000円/年)
郵便振替口座：名古屋8-108610
(通信欄に維持会員申込みと記入して下さい)

尚、事務局の住所は、

〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10
TEL: 052-836-1073
(市営地下鉄鶴舞線川名駅より徒歩15分
" 中駅より徒歩12分)

* * モスクワ駐在所も開設 * *

また昨年の講演会で通訳していただいた留学生イリアさん(モスクワ在住)にお願いしてチェルノブイリ救援・中部のモスクワ駐在員になっていただくことにしました。これまで現地とはファックスによるやりとりが主でしたが、これとて国際電話回線が現地と日本がつながるのに大変時間がかかっていました。そこで日本語も流暢なイリアさんに仲介していただき、通訳と連絡を一度に引き受けていただきスピードアップを図るものです。(モスクワまでは衛星電話回線が通っているため電話のつながりが格段に違います。)またイリアさんにはモスクワ国際空港からの救援物資移送などにも一役かかっていただくことにしています。このため昨年暮れ早川さんらが、モスクワに到着した際にイリアさんと契約を取り交わし、既にファックスも取付けてきました。

イリアさんは、救援・中部の活動には大変理解があり、坂東弘美さんの著書「とどけウクライナへ」(八月書館)をロシア語に翻訳中です。

放射能難民認定のために国連へ

チェルノブイリ救援・中部では、現地の救援窓口としているジトーミルスキー・ヴィスニーク誌と共同で「放射能難民」の認定を国連に求めるために今年代表を国連に派遣することにしました。

これは、これまでの政治的抑圧を逃れるために国を出ざるを得なかった人々（いわゆる政治難民）とは異なり、国を越えて放射能の被災を受けた人々を難民として認め、国際的に救援の手をさしのべようというものです。

これはネチポレンコ編集長の提案をもとに「世界人権宣言」に地球上すべての住民が放射能に対し安全に生きる権利を規定する条項を追加するなど7項目の要望を挙げています。この「環境権」とも言えるものはまだ世界的にも確立されておらずまだまだ長い道のりが予想されますが、いずれ国際的に認知されるものになるでしょう。

以下請願文の一部です。

1948年に国連総会で世界人権宣言が採択された当時は、放射能がいかに危険なものなのかを、世界の誰もがまだ完全には認識していなかった。チェルノブイリ原発事故を経験した現在、良心あるすべての人々は、次のような放射能の恐ろしさを知っている。つまり、放射能は人類の生存そのもの、人類の健康及び遺伝子を日に日に脅かしている、と言う事である。これまでに地球が受けた、原子力による癒しがたい傷は既に15を数えるが、その中でも最も恐ろしいのはチェルノブイリである。これらの悲劇の犠牲者は、昔も今も普通の平和的な人々である。――

具体的な第一歩として、我々は国連と国連難民委員会及びその他の国際的な団体、組織に対し次の事に着手するよう提案したい。

- (1) 国際法習慣に「難民の地位」という概念に近いものとして、「原子力難民」という概念を新たに導入すること。
- (2) 国連の付属委員会として、原子力難民援助委員会を創設すること。
- (3) その援助は、原子力難民が、放射能で汚染された国または地域を去ってしまった場合、あるいは去る意志をもつがそれを実現する可能性を持たない場合にかかわらず、すべての人々に公平でなければならない。――



「とどけウクライナへ」売上好調

救援・中部の代表、坂東弘美さんが会の発足からウクライナを訪問し、救援が展開される最近までを綴った本「とどけウクライナへ」（八月書館より発行）が、おかげさまで好調に売れています。これまで事務局取扱い分だけで約2300冊が売られ、全国の書店で売られているのも含めると3200冊ほどになっています。私達の活動を知っていただく上で大変参考になるものと思います。また売上のうち一部が救援金として事務局に支払われることになっており、これまで53万円が振り込まれました。本を買っていただいた方ありがとうございました。またこれから読んでみたいという方は、事務局または書店にご注文ください。

坂東弘美

「現文」という意味がある。「思い返し」を現実にした事や「世界にこれはとどけ」の意。

「救しごと」か

とどけ ウクライナへ

私たちの愛しいシナイヤちゃん、九月三日がお誕生日。もうまもなく三歳にしては、あまりにも細く、小さい。

「チェルノブイリ救援日誌」

「現文」という意味がある。「思い返し」を現実にした事や「世界にこれはとどけ」の意。

「救しごと」か



八月書館

ご注意！戸別訪問は一切していません

チェルノブイリ救援・中部では、その加盟グループすべてが救援活動として戸別訪問でカンパ要請することは一切していません。最近私達と同じ団体であるかのように装ってカンパ要請されたという報告があいついでいます。

相手が本当に救援活動をしているかどうか、連絡先などに実際に電話するなどして充分相手の団体を確認くださるようになってください。またそのようなカンパがあった場合、なんという団体名であったか、その訪問者の名前や連絡先などを救援中部までご連絡ください。

* チョットひといき (スタッフの会議メモから) *

* A-こんどの講演会のタイトル名は、何にしようか？ いいのない？ *

* B-暗い冬だったし「うー暗いな、ウクライナ」ってのはどう？ *

* C-いやいやそれより「ウクライナ冬物語」がいいよ。 *

* D-それじゃまるでビールの名前よ。 *

* E-「チェルノブイリ救援 冬の旅」はどう？ 全員ーそれいい、決まり！ *

* (かくのごとく救援・中部のイベントは決まるのです) *

講演会：

「チェルノブイリ救援 冬の旅」

へのお誘い

前ページでも書きましたように昨年暮れに救援物資1トンとともにウクライナを訪れた強力な女性スタッフ2名が、講演会を開催することとなりました。二人は、今後の医療救援の調査やモスクワ駐在所にファックスを取り付けるなど、現地編集長から「元気な女性たち」と呼ばれるほど元気いっぱいでした。

そこで救援・名古屋のスタッフがこの二人の報告会を開催することにしました。講演会は、紅茶とピロシキ（ロシアのパン料理）で楽しい茶話会のようにしたいと全員はりきっています。どうぞご参加ください！

講演者：早川彰子さん、松浦千秋さん

今村忠司さん（フリージャーナリスト、ジュノーの会で現地訪問）

日 時：3月22日（日） 午後1時～4時30分

場 所：名古屋市女性会館（旧婦人会館） TEL. (052) 331-5288

（地下鉄名城線「東別院」下車 一番出口東へ下る。徒歩3分）

入場券：700円（紅茶とピロシキつき）

問い合わせ先：チェルノブイリ救援・中部 事務局 TEL. (052) 836-1073

主 催：チェルノブイリ救援・名古屋

チェルノブイリ救援・中部のテレフォンカードができます。

現地から届いた放射能の被害を受けた家族の写真の中から図案にしてテレフォンカードをつくることにしました。50度数で一枚千円ですが、製作費を除いた差額は救援金として使われます。救援中部のイベントで売ることになっています。

図案に選んだ少女（アヌーシカ）の家族は、新居でお客を呼んで引っ越しを祝ったその夜、避難が行われそのまま家に二度と戻ることはできなくなりました。



被災地の子供たちへ
あなたの愛を届けます。

チェルノブイリ救援・中部

緊急のお願い

.....チェルノブイリの被災地で新生児死亡率が増加、ワクチンを送ろう.....

1992年3月12日

チェルノブイリ救援・中部

活動を始めてから2年たちました。この間ソ連邦の崩壊など、激動の連続でしたが幸いウクライナの現地とのつながりも、途切れなかったばかりか一層強化され、チェルノブイリの被災者のもとへ救援物資は確実に届いています。現地のジトーミルスキー・ヴィスニーク社からは、絶えず情報がFAXで入り、緊密に連絡を取り合いながら仕事は進められています。

昨年末に送ったミルクや絵本が無事届いた、という知らせが2月27日に入りましたがそのFAXで重大なニュースがもたらされました。ジトーミルでは、新生児死亡率が増加しており、現地の産婦人科病院の医師たちは、医薬品の不足に苦慮している、というのです。日本では既に殆ど見られなくなったジフテリアや破傷風、ハンカ、結核等による新生児の死亡が多く、これらの病気に対するワクチンやBCG、赤ん坊の貧血を防止するためのビタミン剤等を何とかして手に入れる事はできないだろうか、と言う依頼です。また、病室を消毒する薬剤も不足している、との事で院内感染も大きな問題になっているようです。放射能による免疫力低下で、病原菌に対する体の抵抗力がなくなっていることが事態を一層悪化させています。その上、ソ連が崩壊し、チェルノブイリの被災者を責任をもって救済する体制がなくなった事に加え、政治と経済の混乱は被災者達に「頼りになるものは自分の体だけ」と言わせるほど事態は厳しくなっています。

かつて、日本でも1960～61年頃ポリオ(小児まひ)の大流行に見舞われパニックになりましたが、ソ連からポリオの生ワクチン(当時、日本では製造していなかった)が1000万人分無償で供与され、ひと夏のうちに沈静化したいきさつがあります。

私達は現地の悲痛な声に応える為、消毒薬やワクチンを送りたいと思います。個人のカンパは勿論、医療関係者、製薬会社などの皆さんにも是非ご協力を願います。

カンパ送り先: 郵便振替 名古屋 8-108610 チェルノブイリ救援・中部
住所 : 名古屋市昭和区楽園町137、楽園アパート1-10
電話、FAX : 052-836-1073

一ロッパに広がる恐れがあると警告している。

証言したのは、ロシア人核専門家アンドレイ・ゾロトコフ氏でKGBの書類によると1964年から86年までの間に核廃棄物を入れた容器1万7千個が捨てられていたという。環境保護団体グリーンピースは「食物連鎖に核汚染が入り込み牛乳などが汚染される恐れがある」という。

** ちなみにチェルノブイリ原発からの水汚染は2年前次のように報道されています。 **

現在はプリピャチ川やソージャ川、そしてそのいくつかの支流の川もドニエプル川へ放射能で汚染された泥土を運んでいます。川の水そのものはきれいですが泥土は放射能汚染されています。この泥土はすでに6000万トンになりました。ドニエプル川にある黒海までのすべての水力発電所は大きな危険でおおわれています。この地域には4000万人の人々が住んでいます。

(イズベスチヤ記事から 1990年3月26日付)

* * お知らせとお願い * *

- ・ネチポレンコさんたちの来日講演録全文をまとめました。専門家の解説つき。一部350円。
 - ・チェルノブイリ救援・中部の通信誌「ボレーンエ」の購読を募集中です。年間購読料1000円。今年5月から隔月発刊になります。
 - ・被災地の家族や子供たちから届いた沢山の手紙や絵が「絵はがき集」になりました。1セット5枚で300円です。救援・中部まで直接お申込みください。(これまで4000セットを皆さんに買っていただきました。)
 - ・中古の英文タイプライターをお持ちの方譲ってください。現地編集室のため。
 - ・事務局維持会員になって下さい！詳細は本誌3ページをご覧ください。
 - ・現地からチェルノブイリ特集英語版「CHERNOBYL HOSTAGES」到着 500円
- *****
チェルノブイリ救援・中部 (郵便振替口座 名古屋8-108610)

事務局 〒466 名古屋市昭和区楽園町137 楽園アパート1-10

TEL&FAX: 052-836-1073

(市営地下鉄鶴舞線川名駅より徒歩15分)

代表: 坂東弘美

その他の問合せ先: 岡部 (昼のみ) 豊橋市東新町334 TEL.0532-52-2380

長谷川 (夜のみ) 名古屋市名東区赤松台502 TEL.052-773-0271

(問い合わせはなるべく郵便で、できれば切手を張った封筒を同封してください)

緊急のお願い

.....チェルノブイリの被災地で新生児死亡率が増加、ワクチンを送ろう.....

1992年3月12日

チェルノブイリ救援・中部

活動を始めてから2年たちました。この間ソ連邦の崩壊など、激動の連続でしたが幸いウクライナの現地とのつながりも、途切れなかったばかりか一層強化され、チェルノブイリの被災者のもとへ救援物資は確実に届いています。現地のジトーミルスキー・ヴィスニーク社からは、絶えず情報がFAXで入り、緊密に連絡を取り合いながら仕事は進められています。

昨年末に送ったミルクや絵本が無事届いた、という知らせが2月27日に入りましたがそのFAXで重大なニュースがもたらされました。ジトーミルでは、新生児死亡率が増加しており、現地の産婦人科病院の医師たちは、医薬品の不足に苦慮している、というのです。日本では既に殆ど見られなくなったジフテリアや破傷風、ハンカ、結核等による新生児の死亡が多く、これらの病気に対するワクチンやBCG、赤ん坊の貧血を防止するためのビタミン剤等を何とかして手に入れる事はできないだろうか、と言う依頼です。また、病室を消毒する薬剤も不足している、との事で院内感染も大きな問題になっているようです。放射能による免疫力低下で、病原菌に対する体の抵抗力がなくなっていることが事態を一層悪化させています。その上、ソ連が崩壊し、チェルノブイリの被災者を責任をもって救済する体制がなくなった事に加え、政治と経済の混乱は被災者達に「頼りになるものは自分の体だけ」と言わせるほど事態は厳しくなっています。

かつて、日本でも1960～61年頃ポリオ(小児まひ)の大流行に見舞われパニックになりましたが、ソ連からポリオの生ワクチン(当時、日本では製造していなかった)が1000万人分無償で供与され、ひと夏のうちに沈静化したいきさつがあります。

私達は現地の悲痛な声に応える為、消毒薬やワクチンを送りたいと思います。個人のカンパは勿論、医療関係者、製薬会社などの皆さんにも是非ご協力を願います。

カンパ送り先: 郵便振替 名古屋 8-108610 チェルノブイリ救援・中部
住所 : 名古屋市昭和区楽園町137、楽園アパート1-10
電話、FAX : 052-836-1073